

高知県立坂本龍馬記念館・現代龍馬学会 2021年度 総会議案書

審議事項

<第1号議案> (1) 2020年度事業報告
(2) 2020年度決算報告
(3) 2020年度監査報告

<第2号議案> (1) 2021年度事業計画 (案)
(2) 2021年度予算 (案)

<第3号議案> 役員選出 (案)

* 卷末資料 *

○総括

会長 宮 英司

○規約

○会員名簿

高知県立坂本龍馬記念館・現代龍馬学会 2020年度事業報告

1. 4月1日 『飛騰 第113号』中刷会報 発行
私のテーマ 「龍馬史料を修理して ～龍馬書簡と血染めの掛け軸」 鈴木 裕
(以下学会員敬称略)
話題人インタビュー 会長 宮 英司
「子どもたちに もっと 龍馬を！」
～『龍馬』と『現代』、そして『子どもたち』
こぼれ話 犬歩棒当記(41) 「物語の歴史性」 宮川 禎一
会員の皆様へ 月例会発表者・会報発表者 大募集！
第12回 高知県立坂本龍馬記念館・現代龍馬学会 研究発表会 告知
2. 4月18日(土) 理事会 於：坂本龍馬記念館新館ホール
【理事会】 第12回総会・研究発表会開催について
総会審議事項確認及び承認について
「飛騰」会報執筆者選定
理事会・月例会開催について、
【月例会】 休会(記念館臨時休館の為)
3. 5月23日(土)
第12回 現代龍馬学会 総会・研究発表会 中止
4. 6月20日(土) 理事会・月例会 於：坂本龍馬記念館新館ホール
【理事会】 「第12回現代龍馬学会 総会・研究発表会」中止についての報告
「第13回現代龍馬学会 総会・研究発表会」開催内容について
「飛騰」会報執筆者選定
理事会・月例会開催について
【月例会】 会員発表 宮 英司「龍馬三題」
5. 7月1日 『飛騰 第114号』中刷会報 発行吉広
私のテーマ 「長崎、坂本龍馬之像 建立30周年式典に集う」 柴崎 賀広
話題人インタビュー 国立大学法人愛媛大学 社会連携推進機構教授
「地域連携コーディネーター」 坂本 世津夫
『麒麟がくる』…明智伝説と坂本龍馬…
こぼれ話 犬歩棒当記(42) 「歌枕を訪ねて」 宮川 禎一
コラム・龍馬のこと 「龍馬を描く」 江本 象岳 氏
話してみるかよ 「歴史的に意義のある墓地」 岡上 汎告 氏
6. 10月1日 『飛騰 第115号』中刷会報 発行
私のテーマ 「塩飽と龍馬」 野藤 等
『岡上家』にまつわる話あれこれ 坂本乙女の曾孫 岡上 汎告 氏

- こぼれ話 犬歩棒当記(43)「地獄極楽へようこそ」宮川 禎一
コラム・龍馬のこと 「松山藩と龍馬―届かなかった手紙」大城戸 圭一
話してみるかよ「企画展『安田沖、異国船あらわる!』で伝えたかったこと」島田 佳香
7. 10月17日(土) 理事会・月例会 於:坂本龍馬記念館新館ホール
【理事会】第13回総会・研究発表会開催内容について
「飛騰」会報執筆者選定
理事会・月例会開催について
【月例会】会員発表 渋谷 雅之 「いろは丸始末第6回『明光丸の急用』」
8. 12月19日(土) 理事会・月例会 於:坂本龍馬記念館新館ホール
【理事会】「第13回総会・研究発表会」開催内容について
「飛騰」会報執筆者選定
理事会・月例会開催について
【月例会】会員発表 渋谷 雅之 「いろは丸始末第7回『いろは丸の急用』」
9. 1月1日 『飛騰 第116号』中刷会報 発行
私のテーマ 「史実と創作の間で 薩長同盟を叫ぶ。」楠本 剛
『拝啓 龍馬殿』龍馬と私 西内 茉澄
こぼれ話 犬歩棒当記(44)「大笑いの研究」宮川 禎一
話してみるかよ 「和霊神社の精霊話」川村 貞夫
第13回 高知県立坂本龍馬記念館・現代龍馬学会 研究発表会 告知
10. 2月20日(土) 理事会・月例会 於:坂本龍馬記念館新館ホール
【理事会】「第13回総会・研究発表会」開催内容について
「飛騰」会報執筆者選定
理事会・月例会開催について
【月例会】休会

高知県立坂本龍馬記念館・現代龍馬学会
2021年度事業計画(案)

- ① 定期総会 2021年5月22日(土)
- ② 研究発表会 2021年5月22日(土)
会員の研究発表
- ③ 理事会・月例会
勉強会と記念館・会員からの報告、交流
(6月、10月、12月、2月)
- ④ 「飛騰」中刷会報 発行
年4回(4月・7月・10月・1月)の記念館だよりに差込見開き4ページ
「私のテーマ」
「こぼれ話」「コラム・龍馬のこと」「会員便り“話してみるかよ”」
見開きページ

総括

高知県立坂本龍馬記念館・現代龍馬学会は、「激動の時代を生きた坂本龍馬に学び、その志を受け継いでいこう」という趣旨のもと、2009（平成21）年に発足しました。毎年春に総会と研究発表会を開催し、その成果を『紀要』または『論集』にまとめて出版してきました。また、2か月ごとに例会と研究発表を行うとともに、龍馬記念館発行の機関誌『飛騰』の学会ページを作成してきたほか、会員それぞれのテーマにもとづいたパネル展示も開催するなど、様々な活動を続けてきました。この間、私たちの活動を支えてくださった龍馬記念館のスタッフの皆さんに心からの感謝を申しあげたいと思います。

さて、学会の活動の中心ともいえるべき春の研究発表会は、県内外の多くの龍馬ファンの参加と協力を得て、個性的な空間を紡いできました。2020年の第12回大会は「龍馬の思想と行動」をメインテーマにして実施する運びでしたが、残念ながら新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため中止となりました。特別講演には、日本芸術文化振興会理事の大石学さんによる「坂本龍馬の現代的意義」を予定していました。他に、鹿児島県立短期大学名誉教授の網屋喜行さん、(株) 便利堂・コロナイブ研究所所長の山本修さん、愛媛大学社会連携推進機構教授の坂本世津夫さん、坂本龍馬記念館学芸課長の前田由紀枝さんの4人の研究発表が続く予定でした。今年もこの5人の皆様方にご無理を申しまして、研究発表会の開催を予定しています。また、感染状況に注意を払いながらリモート開催についても視野に入れているところです。

ところで、この1年間の例会は渋谷雅之先生による「いろは丸の急用」と「明光丸の急用」に尽きると思います。先生ご自身のライフワークがさらに広がり、深まっていくのを講話の中から感じたことでした。一般の参加者のみなさんにも十分に届いたことと思います。その他では、「寺田寅彦と龍馬」の折に奈良県の高校生が親御さんといっしょに参加してくれていたのが印象に残っています。次に、坂本龍馬記念館の企画展の充実ぶりについても触れておきたいと思います。①「幕末と船～万次郎から龍馬へ～」展、②「手紙の世界～龍馬で古文書ことはじめ～」展、③特別展「薩摩と土佐～雄藩がたどった近代化の道～」展、④「龍馬の知恵袋・福井藩」展と、興味ある企画の連続でした。ここで、「薩摩と土佐」展の際にも注目された土佐出身の高見弥市（土佐時代は大石団蔵）の銅像について紹介しておきます。土佐を脱藩し、薩摩藩士となっていた高見は、幕末に（1865年に）薩摩の仲間とともにイギリス留学を果たします。鹿児島中央駅前の広場には、「若き薩摩の群像」が1982年に建立され、圧倒的な存在感を放っています。残念なことに、高見弥市と長崎出身の堀孝之の像がありませんでしたが、この特別展とタイミングを合わせたかのように（令和2年9月30日に）2人の銅像が建立され、これで19人の留学生達が勢ぞろいしたというニュースが伝わってきました。何とも言えない嬉しい出来事でした。

最後に、100年前のスペイン風邪の際の高知。学校も軍隊も完全にお手上げの状態であったとのこと。また、新聞社も通常8頁のところ、2頁の新聞を発行した由。その他、県庁、市役所等も例外なく機能不全であったとか…。1918～1920年の流行。ただ、その原因がインフルエンザウイルスであることが突き止められたのは1997年のこととか…。今回は原因がわかっている分、せめて終息が早くやってきてほしいと願っています。どことなく閉塞感が漂い、社会の行き詰まりを感じますが、必ずこれまでのような現代龍馬学会が開催できると信じて頑張っていきましょう。

龍馬ならきっと「みんなあ、元気を出して、新しいマスクを売りにいくぜよ。」と笑い飛ばしてくれるような気がします。

会長 宮 英司